



11月

患者サポート通信

— ささえちゃん便り —

第 139 号



特色ある診療科特集 ～消化管外科



がんの遺伝外来 — 福島から続く「家族とともに向き合う医療」



福島県立医科大学では、2001 年に「がんの遺伝外来」が開設されました。

当時の第二外科において、竹之下誠一教授のもと、星総合病院の野水整先生(非常勤講師)が中心となって始まったこの外来は、全国的にも早い時期から家族性・遺伝性腫瘍に取り組んできた先駆的な試みです*。

現在は、2015 年から門馬が担当し、遺伝診療部と消化管外科が協働し、遺伝性腫瘍症候群（リンチ症候群や家族性大腸腺腫症など）を中心に、患者さんにご家族が将来の医療や生活を考えるための支援を行っています。

がんの罹患や家族歴をきっかけに、安心して相談できる環境を整え、早期発見・リスク低減・次世代への情報提供など、幅広いサポートを目指しています。

「がんの遺伝外来」にご相談いただきたい方の目安

- ・ ご自身、または血のつながったご家族・ご親戚が 若くしてがんと診断された方
(例：50 歳未満の大腸がん、45 歳未満の乳がん、10～20 歳代のがんなど)
- ・ 父方または母方の血縁の中で、同じ種類のがんの既往者が複数いる方
(特に大腸・胃・乳腺・卵巣・子宮など)
- ・ 家系内に稀ながん(希少がん)の方がいる場合
- ・ 複数のがんにかかったことがある方
(同じ臓器に複数回発生する多発がん、異なる臓器に生じる重複がんなど)
- ・ ペアになっている臓器(乳房・腎臓・眼など)で、両側にがんが発生した方

当院では、こうした方々の背景に「遺伝的な要因」が関係していないかを確認し、必要に応じて遺伝カウンセリングや遺伝学的検査を行っています。

検査結果をもとに、患者さんにご家族がよりよい治療・予防・生活の選択ができるよう、医師、遺伝カウンセラー、看護師などの多職種が連携してサポートしています。

*取り組みは評価され、第 10 回および第 20 回日本家族性腫瘍学会(現在の日本遺伝性腫瘍学会)が福島で開催されました(なお第 1 回も郡山で開催。会長は野水先生)。

文責 消化管外科 門馬智之

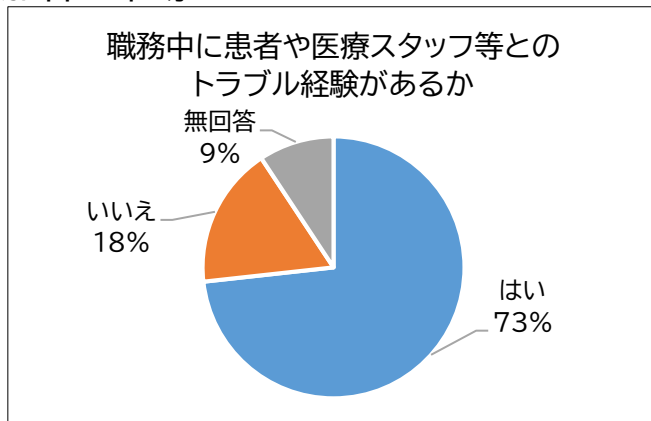
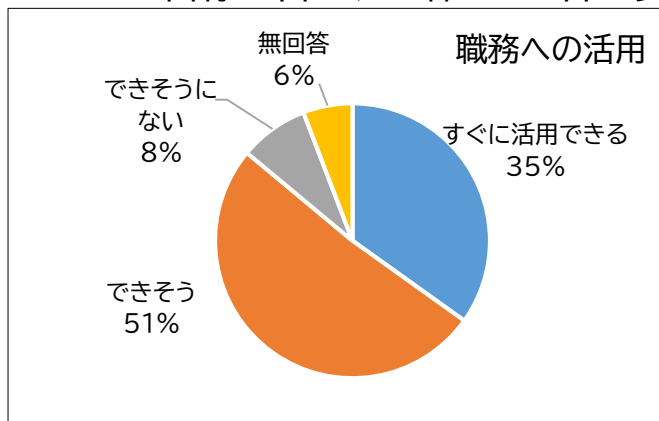




令和 1 年度 医療メディエーター研修開催報告



10月14日(火)16:00～17:30 講堂にて行われ、33名の外部機関の皆様を含め、全体で87名の参加者に来場いただきました

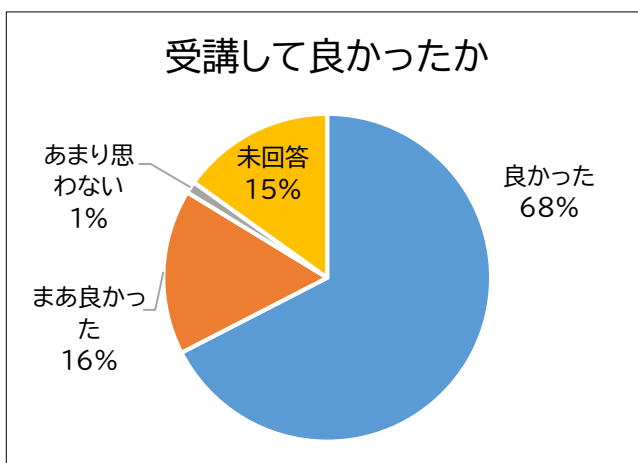


来場者の3人に2人はトラブル経験があるようです。
認知フレームを意識することで回避できることがあるかもしれませんね。

アンケート回収率98%



アンケート回答者	
職種	人数
医師	5
看護師	42
臨床検査技師	1
社会福祉士	13
精神保健士	1
理学療法士	1
作業療法士	1
介護福祉士	1
事務	18
保健師	1
未入	2
合計	86



講演会等のお知らせは

当センターのホームページにも掲載しておりますので
ご覧ください

<https://www.fmu.ac.jp/home/renkei/kouenkai.html>

